



# 図書館だより

2016.5  
No. 25

長崎県立大学佐世保校附属図書館

〒858-8580 佐世保市川下町123  
TEL 0956-47-2191 (代表)  
<http://sun.ac.jp/center/lib/sasebo/>

## 新聞を読もう

太田博道

(学長)

新入生諸君、入学おめでとうございます。4年間は決して長くない。就職のことを考えれば3年が勝負の時間です。卒業時に皆さんに求められるのは「社会人基礎力」です。これは経産省が提案しているもので、インターネットで簡単に検索できるので、早い機会に自分で確かめて下さい。

ある統計によると企業から見て学生に不足している力で、学生の自己評価との間のギャップが大きいものは、コミュニケーション能力、主体性、粘り強さ、一般常識等です。逆に業界の情報等は、学生諸君が気にしているほど企業側は求めています。

コミュニケーション能力とは単に会話ができるということではなくて、自分の意見を言うと同時に他人の意見にも耳を傾け、議論の中から何らかの方針を見つけ、一歩踏み出す力です。おしゃべりだけでは、何も生み出しません。これらの力を獲得するには、知識だけでは不十分ですし、「How to」ものの本を読んで身につくものでもありません。また、一朝一夕で高いレベルに達することも無理で、日常的な努力を続けることで次第に力がつきます。まさに「継続は力なり」です。

具体的にどうすれば良いか？一つの方法は、日頃から新聞を読むことです。図書館に行けば、数種類の新聞があります。新聞を読み比べることはとても面白いことです。自分で複数の新聞を定期購読するのはお金がかかりますが、図書館に行けば、読み比べが可能です。

日本語の記事を読んで概略を知った後に英字新聞を読むことを「粘り強く」続ければ、次第に辞書なしでも理解できることが多くなり、英語ではこんな風なのか、と英語のスキルアップも間違いありません。

日本語の記事だけでも各紙を比べてみると「一般常識」はもちろん、ある記事について自分ならこう考える、このことの原因は何か等と考えをめぐらせて、友人と話し合えば、「主体性」や「コミュニケーション能力」が自然に付いてくると期待できます。

皆さんの入学式の日々の新聞1面を見てみましょう。朝日の大きな見出しは「1万円札1.8億枚増刷」、「ギリシャ難民の送還開始」、「集団的自衛権の想定問答」です。毎日「抗がん剤価格上昇」がトップ、そして難民に関することです。読賣は「中高生の英語力目標以下」、2番目は「水俣病審査10年待ち49人」。全国紙3紙はそれぞれ全く違います。地方紙ではどうか？長崎新聞のトップは「消費喚起へ減税を」という経済諮問会議の提言がトップ。全国紙と地方紙では印刷の締め切り時間が違うことを考慮しなければいけませんが、この記事に関しては「時差」はなさそう。2番目は中高生の英語力に関する記事ですが、地方紙らしく「中高生英語力に地域差」となっています。西日本新聞のトップは「給付型奨学金自治体が先行」と自治体の取り組みを紹介し、それと並んで長崎新聞と同じく「消費喚起へ減税提言」です。最後に日経のトップは「原発安全4電力提携」、続いて「保育所の複数経営優遇」、「マイクロソフトとトヨタが新会社」と他と異質ですが、当然でしょう。新聞は速さでは他のメディアに敵いませんが、皆さんに必要な「解説」や「背景の説明、













---

ちですが、著者が「なるべく1ページぐらいに項目を区切り、読みたいところから読め、かつ大切なことは抜けないように心がけました。」(iページ)と述べているように、1つの項目が2~3ページにまとめられています。また、項目ごとに内容が完結しているので、どこから読んでも問題はありません。

では、中身を少しみておきましょう。I.とII.は暮らしとお金に関する内容です。I.の「暮らしとお金」では、お金とは何かから始まり、家計の支出と収入・家計簿に関する内容が多くなっています。II.の「家計とライフプラン」では、生まれてから死ぬまでにおよそいくらかかるのか、ライフサイクル別に述べられています。

III.とIV.は消費者問題に関する内容です。なかでも、安全性と契約に

